【栃木県】

栃木県立真岡女子高等学校
ＪＲＣ部

高校生ボランティア・アワード2023

地域と繋がる、世界と繋がる。

地域の方々から学んだことを地域の小学生に伝えたり、高校生だからこその方法で世界の人を助けるお手伝いをしたり、真岡女子高校JRC部の活動は多岐に渡ります。

部員の1人ひとりがJRC部での経験を通して成長し、経験を生かした活動を実行しています。より誰かのためになる活動を常に模索しています。

活動概要

【常時行っている活動】

❶「そらまめ食堂」への訪問
❷児童館への大型カレンダー作成
❸コンタクトレンズケース回収
❹「そらいろkid's クラブ」のお手伝い

【年に1～数回の活動】

❺図書館プロジェクト
❻マサイビーズ販売
❼地域のお母さんに向けたハンドケア
❽石巻市災害復興住宅の方との交流
❾高校の最寄り駅の清掃活動
❿街頭募金
⓫地域の街おこし企画への参加
「真岡すきすきシェアクラブ」
「真岡まちづくりプロジェクト」

これからやりたいこと

文化祭での募金活動

募金の箱を持ち校内を歩いて募金の声掛けをする。

保育所・児童館の訪問

コロナ禍前の保育所・児童館の訪問を再開する

真岡女子高校JRC部の活動

マサイビーズ販売

ケニアにあるキラキラ学校に通う子どもたちやその家族が手作りしているマサイビーズを、毎年文化祭で販売しています。

2022年度は売上金87800円を寄付しました。
この活動は、校内の異文化理解にも繋がっています。

「そらまめ食堂」への訪問

「そらまめ食堂」は障がい者の方が働いている食堂です。月2回お手伝いに行き、従業員の方や遊びに来ている地元の子どもたちと交流しています。

1人ひとりの個性を生かすことの大切さや、地域の人々の暖かさを身をもって学んでいます。

図書館プロジェクト

図書館プロジェクトは地域の小学生に向けた障がい者理解のためのイベントです。そらまめ食堂、真岡市基幹相談センター、真岡市立図書館と協力して行っています。

車椅子体験や白杖体験だけでなく、困っている人の助け方や障害とは何かを教えるなど、実践的な内容も取り入れています。

部活動から地域社会へ、より繋がりを広げて

私たちは、創立百年を超える伝統校で勉強に励みながら、限られた時間を利用して地域の活動から、世界との交流まで、さまざまな活動を通して老若男女たくさんの人と交流を深めています。地域での交流を通して学んだことを地域の子どもたちに教え、そこから新たに学びを得て、次の活動につなげようと努力しています。長期間継続させて頂いている活動も、ただ続けるだけでなく、もっと人のためになるようなことを考えながら活動しています。

真岡女子高校JRC部は部員数の多さを生かし、様々な場所に行き、それぞれが違う活動をすることもあります。個人の繋がりを真岡女子高校JRC部につなぎ、さらに地域社会との繋がりを拡大しています。

地元だけでなく被災地の方々、そこから世界への支援にも目を向け、何か力になることを考え、宮城県石巻市の災害復興住宅の方々と文通で交流したり、ケニアの子どもたちが学校へ行くお手伝いをしたり。コロナ禍でも継続できる活動を模索し、繋がりを途絶えさせないよう努めています。

人とつながり地域とつながると、高校生の私たちでも誰かの役に立てている喜びを知ることができます。

人のつながりに限界はありません。これからも地域との交流を深め、そのつながりを全国だけでなく世界にも広げていきたいと考えています。

真岡女子高等学校JRC部　プロフィール

昭和55年より青少年赤十字に加盟し活動している。

地域住民や、市の公共施設の交流とともに、10年以上継続している活動に加えて、地元での新たな活動を開拓し、地域の人と繋がりながら広く進化をみせている。

特に、障がい者就労のNPOが運営する食堂(そらまめ食堂)での交流と手伝いの活動により、障がい者への理解が深まったことで、障がいのことをもっと世の中に分かってもらいたいという強い気持ちが生まれ、市立図書館とで始めた障がい理解啓発イベント、「図書館プロジェクト」では企画運営を行い活動が注目されている。

毎年、県役員の輩出や、JRC全国研修に推薦されるなど、栃木県内で活動の盛んな高校の一つである。

現在部員は1～3年で65名、校内の部活で一番部員数が多い